

生涯活躍のまち構想及び 整備事業（案）の概要

江別市企画政策部政策推進課
令和2年1月

1 生涯活躍のまちとは

生涯活躍のまち構想（日本版CCRC）の概要

⇒ 地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の多世代の住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す。

移住希望者



移住相談窓口など

- 大都市から地方への移住や、地域内で「まちなか」への住み替え等。
- 移住希望者のニーズを踏まえたきめ細やかなコーディネート。

希望に応じた住み替え支援



空き家の改修、サ高住の整備など

健康でアクティブな生活の実現



就労・起業支援など



生涯学習、リカレント教育など

- 健康づくりや就労・生涯学習など社会的活動への参加等により、健康でアクティブな生活を目指す。
- 中高年齢期の早目の住み替えで地域での活躍を期待。

地域の多世代の住民との協働



多世代交流センター、地域サロンなど

大学等との連携など

- 入居者間の交流のみならず、地域の若者等多世代と交流ができる環境を実現。大学等との連携も。

地域包括ケアシステムとの連携



生活支援・介護予防
健康管理・健康づくり

- 入居者と地元住民へのサービスが一体的に提供される環境を整備。

「継続的なケア」の確保



医療・介護サービス

- 医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる体制を確保。

官民連携の取組



- 自治体に加え、移住支援やまちづくりを行う事業者、医療・福祉サービス事業者、地域住民などの参画により、多様な意見が適切に反映されたまちづくりを推進するとともに、持続可能なサービスを提供。

まち・ひと・しごと創生本部HPから抜粋

2 江別版「生涯活躍のまち」構想

江別版「生涯活躍のまち」構想（平成29年3月策定）

【背景】

- 少子高齢化、人口減少が進む中、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組みのひとつとして検討
- 江別市の人口動態：子育て世代が札幌市から転入している一方50歳以上の世代では札幌市への転出が多い（平成29年3月江別版構想）
- 市民アンケートの結果
（平成29年3月江別版構想）

- ⇒現在の居住地への満足度が高い
- ⇒学習活動への参加意欲が高い
- ⇒生涯活躍のまちへの期待がある
- ⇒求めるサービスは医療・介護の充実の割合が高い

図表Ⅲ-2-12 人口動態（江別市からの転入-転出、2014年）

	全体	道内				道外	
		札幌市	石狩管内 (札幌除く)	空知管内	その他 道内		
総数	▲ 117	75	▲ 445	75	232	213	▲ 192
10歳未満	256	256	146	23	27	60	0
10歳代	152	112	▲ 57	11	17	141	40
20歳代	▲ 802	▲ 564	▲ 424	▲ 5	50	▲ 185	▲ 238
30歳代	163	177	74	28	45	30	▲ 14
40歳代	89	84	▲ 3	13	28	46	5
50歳代	▲ 2	▲ 12	▲ 68	7	20	29	10
60歳代	30	22	▲ 40	4	20	38	8
70歳代	▲ 1	▲ 2	▲ 29	▲ 1	13	15	1
80歳代以上	▲ 2	2	▲ 44	▲ 5	12	39	▲ 4
50歳代以上 (再掲)	25	10	▲ 181	5	65	121	15

2 江別版「生涯活躍のまち」構想

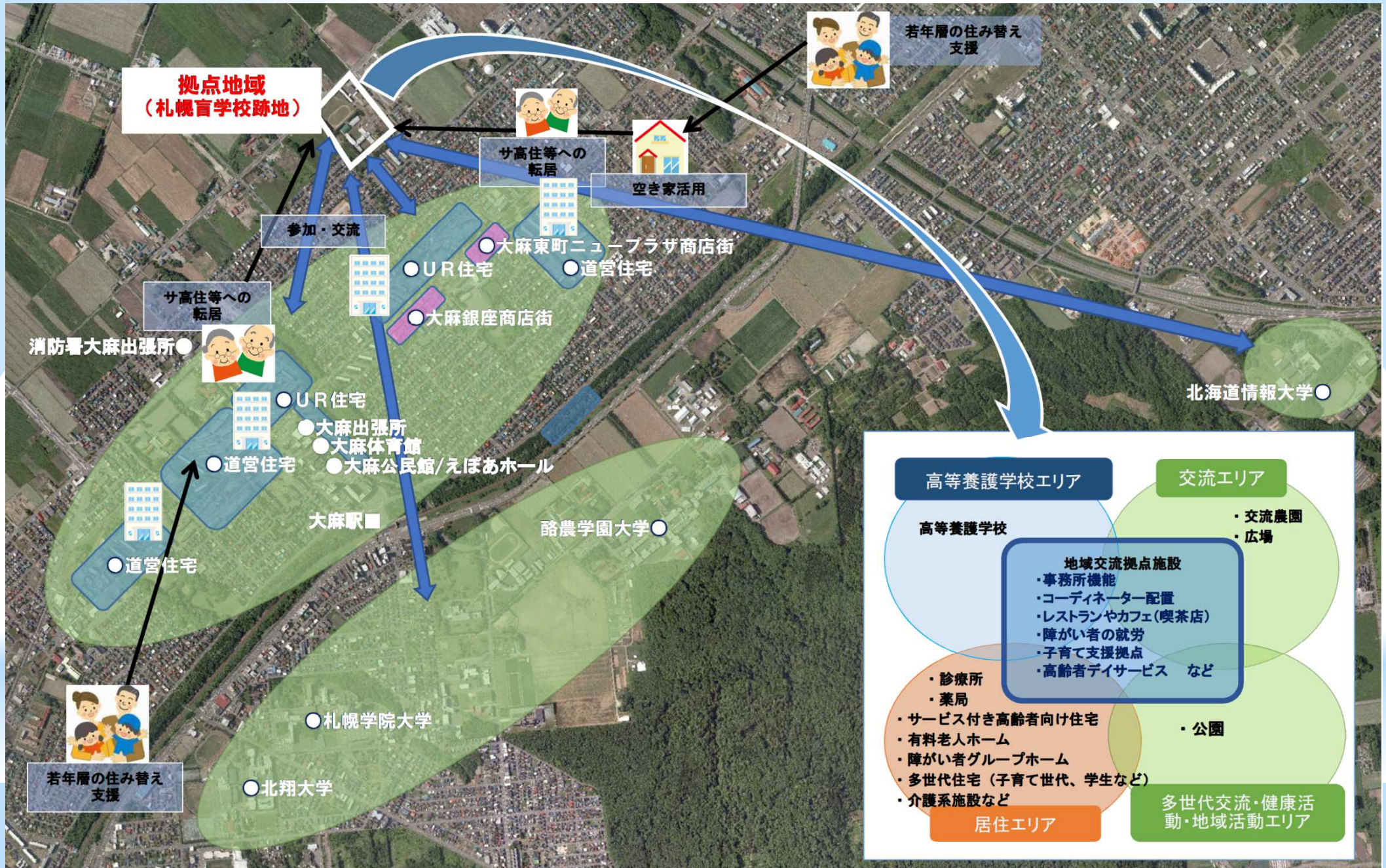
江別版「生涯活躍のまち」のコンセプト

- ① 江別市民が住み慣れた地域で、生涯にわたり医療・介護サービスの充実や生活利便性が確保され、安心した生活ができる
- ② 若年層や障がい者など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現する
- ③ 地域の特色ある社会資源「4大学（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）、地元産業、商店街など」を十分に活用する

高等養護学校の誘致活動を行っている大麻地区において

旧札幌盲学校跡地の一部を中心とした
「大麻タウン型モデル」を選定

2 江別版「生涯活躍のまち」構想



3 生涯活躍のまち整備事業 事業予定者

※平成30年8月「江別市生涯活躍のまち整備事業者選定委員会」で選定

【グループ代表法人】

◆ 社会福祉法人 日本介護事業団

【グループ構成員】

◆ 医療法人社団 光進会 札幌月寒病院

◆ 農業生産法人 株式会社つしまファーム

◆ 株式会社 つしまマネージメント

◆ NPO法人 シニアアクティブ

【協力法人】

社会福祉法人ノテ福祉会・学校法人日本医療大学

代表法人を中心に「つしま医療福祉グループ」を構成する各法人が、それぞれのノウハウや専門分野の実績を生かしながら連携協力して、江別版「生涯活躍のまち」構想のもと、「江別市生涯活躍のまち」実現に向け、整備・運営を実施

4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（1）整備運営のコンセプト

その1 生涯にわたって安心して生活できるまちづくり

その2 若年層や障がい者など多様な主体との交流による

「共生のまち」を実現し、まちの持続可整性を高めます

その3 地域の特色ある社会資源を活用するまちづくり



目指す
成 果

*その1 江別市内からの高齢者の転出を抑制

*その2 江別版「生涯活躍のまち」構想をつくりあげ、「つしま医療福祉グループ」が目指す「誰もがごくふつうに暮らせるしあわせを創造する」まちを実現

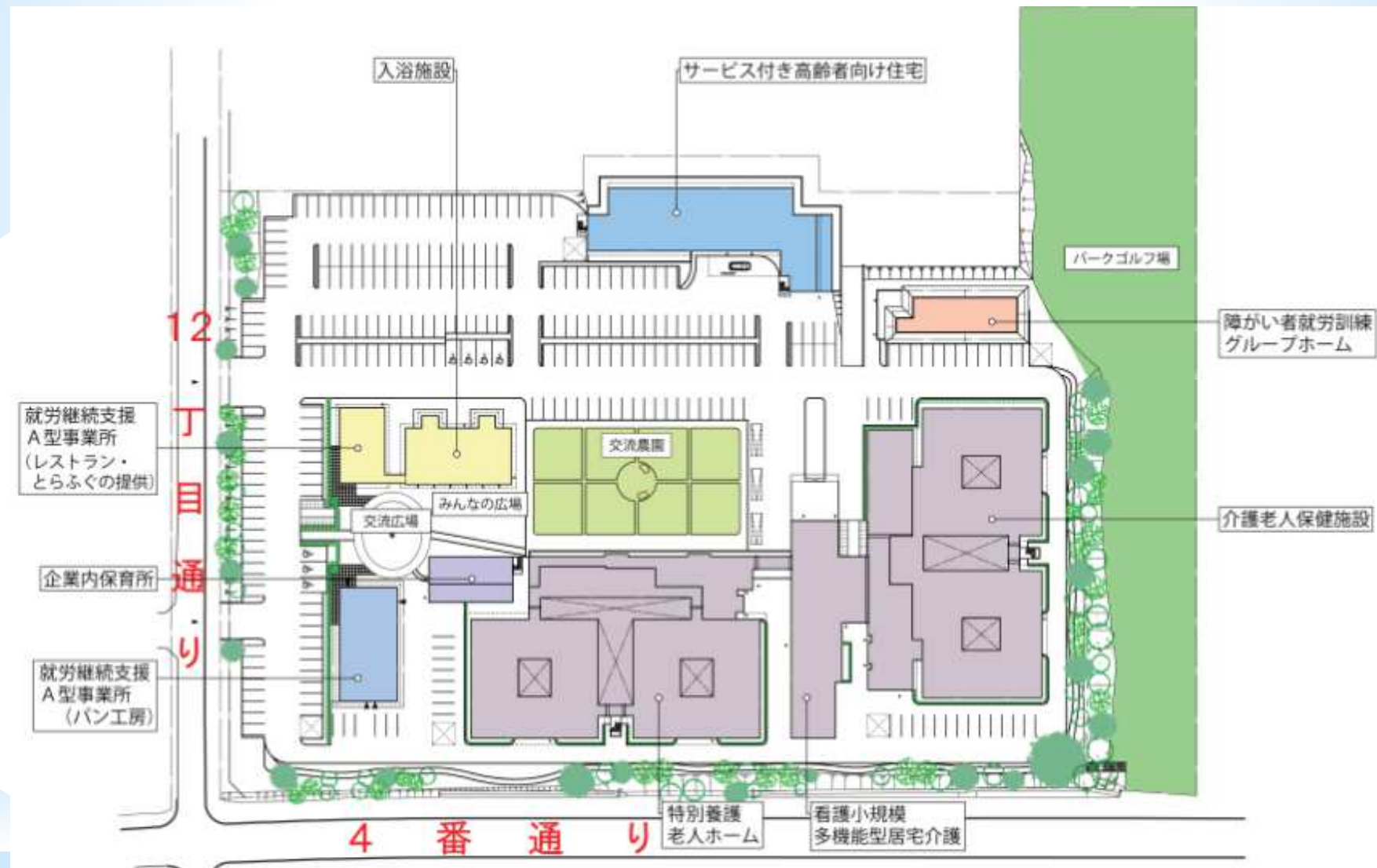
4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（2）江別市生涯活躍のまち整備事業のイメージ図



4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（3）拠点地域の施設配置予定図



4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（4）拠点地域において整備運営する施設（予定）

整備予定の施設一覧

	施設名称
1	地域交流拠点施設 ・就労継続支援A型施設：パン工房・レストラン（とらふぐの提供） 入浴施設、地域交流スペース 等
2	交流農園
3	パークゴルフ場（9ホール）
4	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
5	介護老人保健施設
6	看護小規模多機能型居宅介護事業所
7	サービス付き高齢者向け住宅
8	障がい者就労訓練グループホーム
9	保育園（企業主導型保育事業）

4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（4）拠点地域において整備運営する施設（予定）

① 地域交流拠点施設



ア) 就労継続支援A型事業所

- ・障がいのある方が住み慣れた地域で働きながら暮らすことができるよう、パン工房（カフェ含）を就労継続支援A型事業所として整備
- ・パンは直接販売するほかグループ内の大学や介護施設でも販売
- ・ふぐ料理は地域住民が利用できるレストラン内で提供

イ) 入浴施設

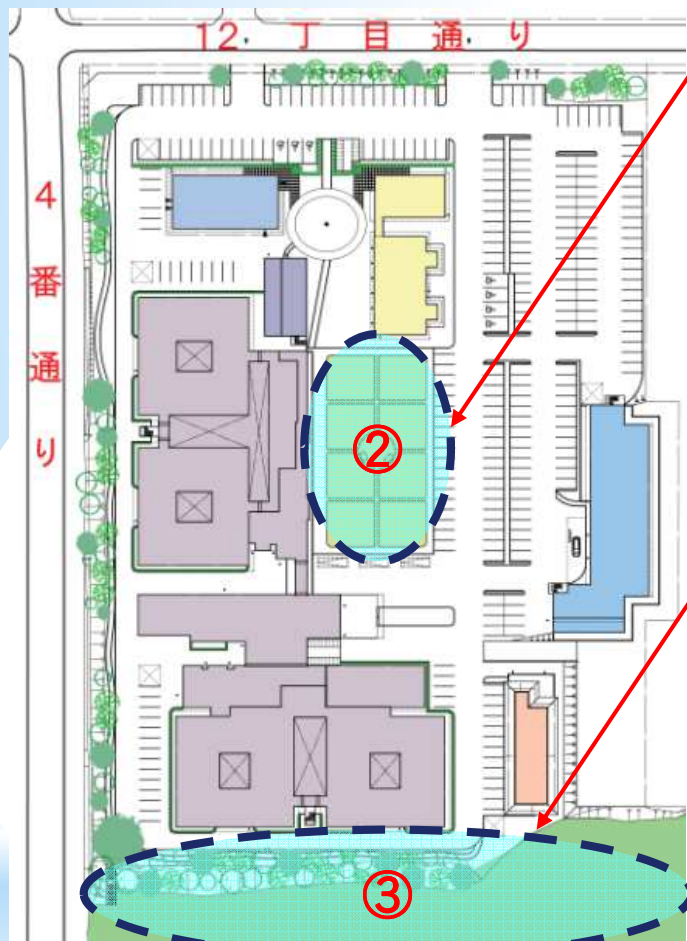
- ・入浴施設：生涯活躍のまちの利用者（高齢者、障がい者など）や地域住民の交流の場として活用、利用形態は法令や地域の意見を勘案して決定予定

ウ) 地域交流スペース

- ・朝市や各種イベント・お祭り等の開催
- ・施設の空間を利用⇒自治会の会議等として活用
- ・学生ボランティアの協力による地域交流活動
- ・就学前の親子を対象とした「地域のあそびのひろば」など子育て支援利用を検討 など

4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（4）拠点地域において整備運営する施設（予定）



②交流農園

- 生涯活躍のまちの入居者や施設入所者、地域住民などの交流の場として整備
- 農福連携の取組みについても検討

（グループ内他施設 参考写真）



③ パークゴルフ場

- 入居者や地域住民などの交流の場として、既存の白樺の植栽やコースを生かしつつ9ホールのコンパクトなコースを整備
- コースは地元のNPO法人に無償で貸出しし、NPO法人による維持管理等、現行の運営継続を基本

4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（4）拠点地域において整備運営する施設（予定）

④ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

80床（8ユニット）

- 可能な限り居宅生活への復帰を念頭に、入浴、排泄、食事等の介護、相談および援助その他の日常生活上の支援、機能訓練、健康管理等を実施

⑤ 介護老人保健施設

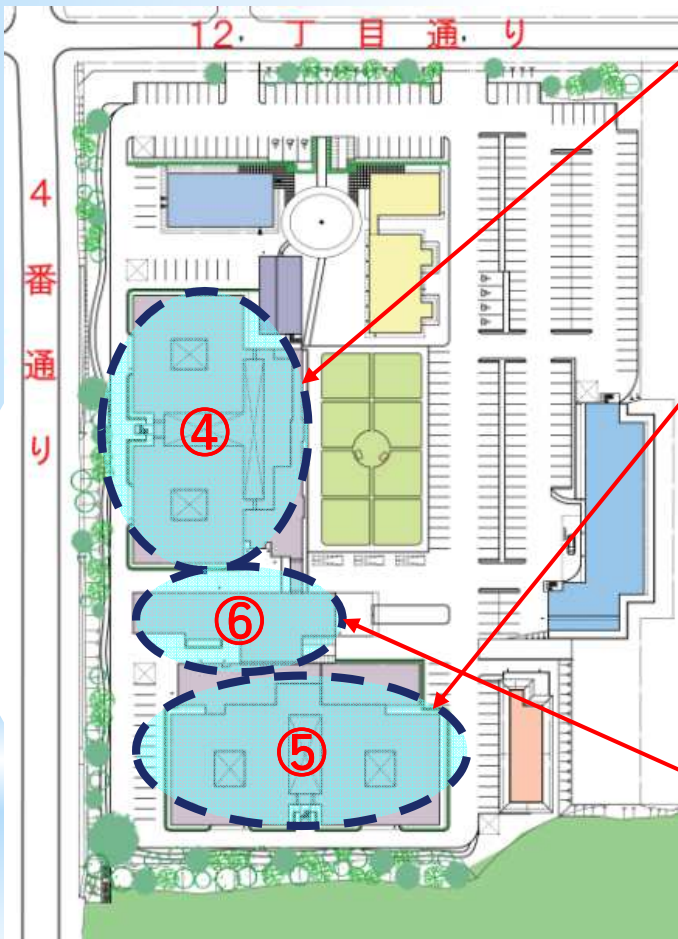
80床（8ユニット）、通所デイケア10名

- 病院退院後の在宅生活に向けてスムーズに生活が送れるよう、必要なりハビリテーションと適切なケアプランを作成し、在宅復帰を目的として、在宅強化型として運営

⑥ 看護小規模多機能型居宅介護事業所

登録定員29人（通いサービス18名、宿泊サービス9名）

- 退院直後の在宅生活へのスムーズな移行が図られるよう利用者のニーズを把握するためのアセスメント（評価）を実施
- 理学療法、作業療法等による利用者の心身機能の維持回復や、がん末期等の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続のために、ニーズに合わせた「通い」、「訪問」、「宿泊」サービスを柔軟に提供



4 生涯活躍のまち整備事業（案）の概要

（4）拠点地域において整備運営する施設（予定）



⑦ サービス付き高齢者向け住宅

- 生涯にわたり江別市から転出することなく安心して住み続けられるよう、サービス付き高齢者向け住宅を整備
- 事業協定を締結後、地域の方や入居希望者のニーズを把握した上で、タイプや仕様、軒数を決定し施設の設計を実施

⑧ 障がい者就労訓練グループホーム

定員20人程度

- 市内に住んでいる方で養護学校卒業後に就労できていない方や、地方の障がい施設に入所していて就労を希望する方などを対象に、パン工房（就労継続支援A型事業所）、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の介護職として積極的に受入れし、その後、二、三年の経験を積んで、地方の介護施設で介護職員が不足している施設で一般就労ができる人材を育成
- 当該グループホームは、そうした方の受入れに際し、「生活の場」となるよう整備、運営

⑨ 保育園（企業主導型保育事業）

定員30人程度

- 職員の就労と子育ての両立を支援するため、拠点地域の施設内で保育園（企業主導型保育事業）を開設
- 同事業の中で地域枠として一部を開放し、地域住民の保育需要にも対応予定

5 主なスケジュール（予定）

年	月	内 容
2019年 (平成31年 令和元年)	2月	事業協定締結（市と事業予定者）
	3月	土地売買契約締結（道教委から市へ）、土地引き渡し
	7月	土地売買契約締結（市から事業者へ）、土地引き渡し
	10月	土地利用に係る地区計画決定
	12月	既存建物解体工事開始
2020年 (令和2年)	5月	建築工事開始
2021年 (令和3年)	3月	介護施設入所開始
	4月以降	その他の施設利用開始